東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１2年6月15

ミラージュの夜

親愛なるムスリムの皆様。

２０１２年６月１６日土曜日の夜は、神聖なミラージュの灯明祭です。これは、愛する預言者ムハンマドさまがこの夜、マッカのハラーム・モスクからエルサレムのアル・アクサ・モスクへと、そこから天へと旅をされた、祝福された夜の名です。

事実アッラーはクルアーンで「かれに栄光あれ。そのしもべを、（マッカの）聖なるマスジドから、われが周囲を祝福した至遠の（エルサレムの）マスジドに、夜間、旅をさせた。わが種々の印をかれ（ムハンマド）に示すためである。本当にかれこそは全聴にして全視であられる。』（夜の旅章１）と言われているのです。預言者さまの生涯において重要な位置を占めるミラージュは、アッラーが預言者さま以外の誰にも与えられることのなかった神聖な恵みです。崇高な預言者さまにとって大きな誉れに満ちたこのミラージュの夜は、私たちムスリムにとっても神の慈悲と恵みで満たされたものです。

ミラージュの出来事のうち私たちにとって最大の結果の一つは、疑いもなく、教えの柱である礼拝でしょう。礼拝は私たちへのミラージュの贈り物です。預言者さまがミラージュにおいて媒介なくアッラーと出会われたように、信者たちも礼拝において何物をも媒介とせずに直接アッラーの御前に至り、ただアッラーにつかえ、ただアッラーに庇護を求める機会を得るのです。もし信者が日に５回の礼拝を注意深く、集中して行えば、その礼拝は彼にとって一つのミラージュであり、人はそれによってアッラーへと至る道を見出すのです。

親愛なるムスリムの皆様。このように特別なこの夜を良い機会として、預言者さまに下された、人々を幸福へと導く原則を思い起こすことも重要です。なぜならクルアーンではミラージュの精神的なあり方について言及する際、「アッラーはしもべに、啓示されるものを啓示された」と言われているからです。ここで啓示された真実をを次のように要約することが可能でしょう。「アッラーに何ものかを配せず、ただアッラーのみにしもべとしてつかえ、ただアッラーのみに庇護を求めること。両親に敬意を払うこと。彼らのドゥアーを得ること。姦淫を行わないこと、正当な理由なく他者を殺害しないこと。孤児によく振る舞うこと。はかりを正しく用いること。よく知りもしないことに従わないこと。意識を持って行動すること。地を、うぬぼれや思い上がりのうちに歩かないこと」

これらの原則は疑いもなく、一つの社会にとって必要な全ての徳を含むものです。そう、ミラージュの夜とはこのように神聖な夜なのです。この夜を活用する際には、この夜に掲示された尊い真実にも耳を傾けなければならないのです。ただアッラーにつかえ、アッラーに何ものをも配さないのです。親愛なるムスリムの皆様。ミラージュの夜は崇高な夜です。だからこの夜を不注意さのうちに過ごすべきではありません。崇拝行為と共に、アッラーに対する感謝を行うべきです。礼拝し、クルアーンを読み、アッラーに許しを求めるべきです。子供たちにこの夜の重要性を教える必要があります。周囲の困窮者や身寄りのない子供たちに援助の手を伸ばしましょう。両親や目上の人々を訪問し、手にキスをし、彼らのドゥアーを得ましょう。来世へと移っていった人々を慈悲と共に思い起こしましょう。友人たちと祝福を行いあい、愛情と敬意の気持ちを強めましょう。

皆さんのミラージュの夜を祝福し、イスラーム世界のための善への要因となることをアッラーに懇願いたします。